



自民党

第33代・第34代環境大臣



あさお 慶一郎

何度でも
チャンスのある社会を

今月の提言

東日本大震災から15年を迎えて

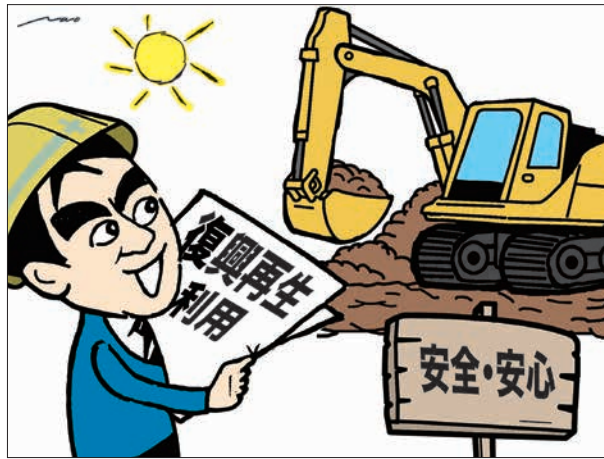
今月、3月11日で東日本大震災発災15年を迎えました。とても長い月日が経ったことを実感します。着実に復興が進んでいるとはいえ、福島県の浜通り地域を中心としてまだまだ、復興に向けた努力が必要な地域があると感じています。

鮮明によみがえる
福島県知事との会話

震災から2ヶ月ほどが経過し、たくさんの方が福島第一原発の近くの地域から会津地方に避難されました。そうした方々のサポートのため、私の地元鎌倉の団体会津に入りました。私もその団体と避難されている方々を激励するために会津へと向かいました。その際、途中で福島市の県庁にも寄りました。県庁で当時の知事、佐藤雄平さんと交わした会話は、今でも鮮明に覚えています。現在の内堀さんも副知事として同席されたのですが、事故に対するやり場のない怒り、そして「復興が本当になされるのか」という疑問が投げかけられました。

環境大臣として最初の出張は福島県

震災から13年を経た昨年、私は環境大臣に就任しました。そして最初の地方訪問のお相手は内堀福島県知事で



した。福島第一原発の周辺にも足を延ばしました。震災により発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故。その環境再生に向けた除染により、大量の土壌が発生しました。この土壌は福島県外で最終処分することとなっています。その作業を進めるためにも、最終処分する土壌の量を減らすことが何より重要です。カギとなるのは放射性物質汚染濃度が低い土壌を公共事業等で利用する（復興再生利用）ことです。また、

最終処分・復興再生利用の必要性・安全性の理解醸成が必要となります。まさに、環境省の責務でもあります。

復興再生土の早期利用の実現を！

このため、復興再生利用の取組について、私はまずは首相官邸で利用することが肝要と考え、昨年実現しました。しかし、全体量からすれば、まだまだ僅かです。東京ドーム11杯分も存在する除去土壌の内、4分の3は公共事業等で復興再生利用出来る貴重な資源です。早期に復興再生土の利用を大規模に実現し、福島復興に寄与して参りたいと考えています。

第33代・第34代環境大臣 浅尾 慶一郎

誰にでも何度でもチャンスのある社会を。

あさお慶一郎のプロフィール

昭和39年2月11日生まれ
米光学園高校、東京大学法学部卒業
日本興業銀行出身、証券アナリスト
米スタンフォード大学
経営大学院 (MBA) 修了

平成10年 参議院議員選挙初当選
平成16年 参議院議員選挙当選 (2期目)
平成21年 衆議院議員選挙初当選
平成24年 衆議院議員選挙当選 (2期目)
平成26年 衆議院議員選挙当選 (3期目)
令和4年 参議院議員選挙当選 (3期目)

浅尾慶一郎
事務所

鎌倉事務所

〒247-0056 鎌倉市大船1-23-11 松岡ビル5階
TEL.0467-47-5682 FAX.0467-47-5626
info@asao.net

Website
asao.netFacebook
facebook.com/
keiichiroASAOX
twitter.com/
asao_keiichiroYouTube
youtube.com/
user/
asaokeiichiro



活動レポートの『クローズアップかながわ』は、神奈川県内の政令指定都市で活躍する方々にインタビューし、それぞれの地域の魅力を発信してまいります。
今回は、JAセレサ川崎の代表理事組合長を務める梶 稔さんにお話を伺いました。小田急線沿線の洗練された街並みと、古き良き里山風景が共存する麻生区。都市農業の最前線に立つリーダー・梶さんの視点から、この街の魅力と守るべき未来をお話いただきました。

あさお：麻生区で、梶さんが「ここはぜひ足を運んでほしい」と思うところをおきの場所を教えてください。

梶さん：一番は黒川にある大型直売所「セレサモス麻生店」です。周辺の里山風景をウォーキングするのも最高ですよ。県境に残された貴重な「黒川よこみね特別緑地保護地区」、散策にぴったりの「よこやまの道」など、都会のすぐ隣に驚くほど豊かな自然が残っています。毎年秋に開催される「緑と道の美術展in黒川」は農とアートが出会う場として話題ですし、またサッカーファンなら川崎フロンターレの練習場「麻生グラウンド」もぜひ。開放感ある練習風景はこの街ならではの景色です。



セレサモス麻生店

あさお：歴史的な魅力も多いですね。「うちの区一番の自慢」である禅寺丸柿と、地域を繋ぐイベントについてはいかがでしょうか？

梶さん：日本最古の甘柿といわれる禅寺丸柿は、江戸時代には砂糖の代わりになるほど重宝されました。実はかつて、この辺りを「柿生（かきお）区」にするという案が出たほど、地域に深く根ざした存在なんです。400年前の木から枝を繋ぎ、今も大切に育てられています。秋には「禅寺丸柿まつり」も開催され、この歴史を次世代へ語り継ぐ大切な機会になっています。

あさお：都市農業のリーダーから見た、地域の「強み」と「未

来」をどうお考えですか？

梶さん：強みは何より、生産者と消費者が隣り合っていることです。ただ、市街化の中での農地維持は容易ではありません。高齢化や相続の問題で農地が減る現状は深刻ですが、農協の使命は農地の保全です。農家の皆さんのモチベーションを上げ、再生産が可能な価格で販売できる仕組みをつくるのが、豊かな食と街の未来を支える「鍵」になると考えています。

あさお：最後に、梶さんの今後の「夢」をお聞かせください。

梶さん：若者が自ら「農業をやりたい」と思える政策を打つことです。例えば消費税の事務負担や価格転嫁の問題など、現場の感覚に寄り添った制度設計が必要です。農家が納税者として持続可能な経営を続けられる環境を整え、次世代へ農地を引き継ぐことが私の夢ですね。

あさお：現場の切実な声、しっかりと受け止めました。今回のお話を通じて、都市農業が食糧生産だけでなく、景観や防災、住民の心の豊かさを守る「命綱」であることを再認識しました。相続税や固定資産税、複雑な税制対応といった障壁は、一自治体の努力だけでは解決できません。国政の場において、都市農地を守るために法整備や税制改革を加速させることが、この美しい里山を次世代へ繋ぐための私の使命です。

梶さんの2選：麻生区の誇る名産品



禅寺丸柿
400年以上の歴史を誇る日本最古の甘柿。上品で濃厚な甘みの特徴の、地域の宝物です。



いちご
若手農家を中心に温室栽培が盛んです。もぎたての鮮度を味わえる、直売所の人気者です。

あさお慶一郎をご支援ください

特別賛助
会員募集

「あさお慶一郎君を応援する会」では、あさお慶一郎の政治活動を支援する一助として『特別賛助会員』(5,000円/年)*の募集を行っております。ご入会の方に、鎌倉彫の伝統継承者 三橋 謙幽氏がデザインした『2026年干支「午」』のオリジナルピンバッジをお渡しします。

*後援会組織「あさお会」は無料。年会費はありません。



あさお慶一郎「陽春の集い」開催

あさお慶一郎議員との懇親を深める恒例の「陽春の集い」が開催されます。国政報告だけでなく、気兼ねなく対話できる貴重な機会です。ぜひご参加ください。

日時：4月19日(日) 11時30分～(受付 11時00分から)
会場：KKR鎌倉わかみや / 会費：5,000円
申込：4月13日締切。氏名・住所をTEL.0467-47-5682
もしくはメール (toushi@asao.net) で。

※詳細は浅尾事務所 (0467-47-5682) まで※

お申込み記入欄

お申込みは FAX. 0467-47-5626 か asao.net のご意見・お問合せフォームへ

お申込みをされる項目に✓をしてください	フリガナ	電話番号
<input type="checkbox"/> 特別賛助会員	お名前	E-mail
<input type="checkbox"/> ポスターの掲示ご協力 *自宅の壁・フェンス等に掲示可能な方はお知らせください	〒	
<input type="checkbox"/> 自民党入党希望	ご住所	

各種入会・詳細に関しましては、「浅尾慶一郎事務所」ホームページ「https://asao.net/」又は TEL. 0467-47-5682 までご連絡ください。